令和3年第1回臨時会

企画産業常任委員会
会 議 録

期日：令和3年2月8日（月）

場所：第2委員会室

大仙市議会企画産業常任委員会会議録

日 時 令和3年2月8日（月曜日） 午前10時22分 ～ 午前11時02分

会 場 第2委員会室

出席議員（7人）

委員長 大山利吉 副委員長 三浦常男 6番 秩父博樹
7番 石塚 柏 20番 橋本五郎 25番 鎌田 正
27番 橋村 誠

欠席議員（0人）

説明のため出席した者

企画部長 福原勝人 まちづくり課長 田口美和子
まちづくり課参事 山信田恭弘
経済産業部長 高橋正人 経済産業部部長待 小松正美
遇兼企業商工課長
企業商工課参事 加藤健一郎 企業商工課主幹 今野 智

議会事務局職員出席者

副主幹 佐藤和人

審査案件

1 議案第1号 令和2年度大仙市一般会計補正予算（第18号）

午前10時22分 開 会

○委員長（大山利吉） おはようございます。

旧大曲町よりも太田が雪少なく、それよりももっと少ないのが協和町、これが大仙市全部の積雪の状態であります。天気予報で、『ところにより』って言うけれども、まったくそのとおりだなと思ひまして、1日も早くこのような猛吹雪終わってほしい

などと思う今日この頃であります。

それでは、ただ今より、企画産業常任委員会を開会いたします。

それでは審査に入りますが、審査は当委員会に付託された事件について、お手元に配付の日程表にしたがって、審査してまいります。

なお、発言をする際は、委員長の許可を得たあとで、マイクのスイッチを入れてからお願いをいたします。

○委員長（大山利吉） はじめに、企画部長から挨拶があります。福原企画部長。

○企画部長（福原勝人） あらためまして、おはようございます。

議案審査のために委員会を開催していただきまして、誠にありがとうございます。

本日、ご審議をお願いいたします企画部関係の議案は、地域協働雪対策事業に係ります一般会計補正予算 1 件であります。

詳細は、このあと、まちづくり課長に説明させますので、よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

なお、この度の豪雪によりまして、自治会館にも被害が出ております。今日現在、大曲地域 3 件、西仙北地域 1 件の合計 4 件、いずれも雪の重みによる軒の損傷であります。今後、修繕経費に対しまして、補助率をかさ上げして支援してまいりたいと存じますので、よろしくようお願い申し上げます。

以上、ご報告申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

○委員長（大山利吉） ありがとうございました。

それでは、早速ですが審査に入ります。

議案第 1 号、令和 2 年度大仙市一般会計補正予算（第 1 8 号）を議題といたします。

はじめに、まちづくり課所管の説明を求めます。田口まちづくり課長。

○まちづくり課長（田口美和子） まちづくり課です。よろしくようお願いいたします。

それでは、議案第 1 号、令和 2 年度大仙市一般会計補正予算（第 1 8 号）のうち、まちづくり課所管にかかる歳出予算について、お手元の資料ナンバー 3 - 1 「主な事業の説明書」に基づいて、ご説明申し上げます。

資料ナンバー 3 - 1 「主な事業の説明書」 2 ページをご覧ください。

歳出2款1項11目21事業、地域協働雪対策事業費については102万1千円の補正であります。

本事業は、大仙市雪対策総合計画に基づき、地域住民による自主的な除雪等に対して補助金を交付し、雪対策における住民参画と協働の促進を図るとともに、冬期間においても安心して暮らすことができるまちづくりに寄与することを目的としております。

4、補正の内容であります。本年1月4日に豪雪対策本部が設置され、著しく除雪等に要する経費の増大が見込まれること、また、複数の申請団体から要望がありましたことから、要綱の規定により右下に記載の補助単価を倍額補正し、上限を5万円とする追加補助を行うものであります。

本事業は、要綱により事業実施期間を11月1日から3月31日と定めており、申請は毎年9月1日から10月末日としております。今年度は36団体から申請があり、下の表の①補正後の実績見込額から、②予算現額を差し引いた102万1千円の補正をお願いするものであります。

以上、まちづくり課所管にかかる補正予算についてご説明申し上げましたが、よろしくご審議のうえ、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（大山利吉） ありがとうございます。説明が終了いたしました。

これより質疑を行います。質疑のある方、お願いいたします。はい、石塚委員。

○7番（石塚 柏） 西仙北は非常に順調に周知徹底っていうんでしょうか、PRうまくいってるんだと思うんですけど、その理由とほかの人口の多いところとの格差の理由と、今後なるだけ全市全般にわたるようなという考えがおありなのかどうか。

○委員長（大山利吉） はい、田口課長。

○まちづくり課長（田口美和子） まず一つ目の西仙北地域の団体数が多いということですが、ございますけれども、当初始まった段階から西仙北地域には非常に多くの団体から手を挙げていただきまして、取り組んでいただいております。これは地域で、なぜこの地域が多いかというところは、実際のところ、私が把握しておらないんですけども、ただ担当者と話しした際に、西仙北地域は昔からつながりもありますし、一つの団体の取り組みが非常に周りの地域に波及しているというような話を聞いたことがあります。あとは、シルバー人材センターにお願いする各お宅が多かったり、建設会社にお願いするお宅がそれぞれあるようなんですけれども、地域にその西仙北地域の細かい集落まで、そういう手が届かないというような、地域の奥のところまでなかなか手が回らないところ

を、やっぱり自分たちの昔からのつながりの中で、自分たちのことは自分たちで解決していこうというような思いが強い地域だというふうに担当の方からは伺っております。

また、ほかの地域と比較いたしましても、市全体で、やはり大曲地域が非常に少ない現状でございます。やはりこれは身近にお願いする事業所ですとか、お願いする団体が多い、その土地柄なのかなというふうに思っております。やっぱり建設会社さんでも、やっぱり大曲地域に多い場合もございますし、そういったお願いする場所が大曲地域には多くて、なかなか集落で、自治会で取り組むというところまでは至っていない。裏を返しますと、近所、隣同士の関係が希薄化してるのかなというところも若干あるのかなというふうに思います。

○委員長（大山利吉） はい、橋本委員。

○20番（橋本五郎） 屋根の雪下ろしも可能ですか。やっってくださいてる。

○まちづくり課長（田口美和子） はい、そうです。

○20番（橋本五郎） 我々協和の地域でもなかなかやはり人頼まれぬ、一人暮らしの方々が結構いるわけっしな。シルバーの方では屋根の方はダメだと、当然危険を伴うものだから、私はやっぱりこういう小集落の中でお互いに助け合うということで、俺は非常に好ましいことだと、私自身思ってで、そういう一人暮らしの方々に、なんとせばいいが、頼まれぬ方々には、どういう方法で、どちらの方に手続きをしたらいいのかって聞かれるんですよね。シルバーの方ではダメだって言われるもんだがら、せばそばに誰かいるがっていけばなかなかいないわけな。そういう時どうするものなのかなと思って、ちょっと。

○委員長（大山利吉） はい、田口課長。

○まちづくり課長（田口美和子） この事業の中で申し上げますと、36団体のうち、屋根の雪下ろしをしている町内会さんもございます。全部で99の屋根の雪下ろしをしていただいております。当然危険も伴いますので、それ相当の保険にも加入していただいております。そういった作業等に危険が伴いますので、屋根の雪下ろしですとか、間口除雪、機械を使う際にもけがですとか、そういったものがあつた場合のことを想定しまして、きちんと保険にも加入していただいて、屋根の雪下ろしも実施していただいております。やっぱり、一人暮らしの世帯の方から、屋根の雪下ろしのご相談も受けることがございますけれども、まず町内の会長さんの方にお話をしていただいて、会長さんが各集落、この事業でやっていくというような町内会の中の意思統一をしていただいて取

り組んでいただくというようなかたちにしていただいております。

○委員長（大山利吉） はい、橋本委員。

○20番（橋本五郎） 各自治体の会長さん方、こういう制度分かってるおんだべが。

○委員長（大山利吉） はい、田口課長。

○まちづくり課長（田口美和子） 自治会育成支援事業という、ほかの自治会の支援をしている事業がありますけれども、それと一緒にご案内を差し上げたり、あといろんな機会を通して、広報にも掲載させていただいておりますが、機会をとらえてPRには努めているところでございます。

○20番（橋本五郎） こういう、やはり大雪の時は、なんとかそういう地域地域の中でお互いに助け合ってやっていぐべきものだなと思って、徹底してご指導願えればと思います。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） 参考に教えてください。

団体数、例えば中央の町内会とか、また中央から結構離れた集落とかで、加入している世帯数だとか、人数とか、結構開きあるんじゃないかなというふうに想像するところですけど、参考に教えてもらいたいのが、多いところってどれくらいなのか、あど少ないところってどれくらいなのか。確か加入するのさ、5世帯以上っていう規定あったっていうふうに記憶してるんですけど、そういうふうに考えると、例えばなんとなく想像するの、大曲の町内会なんか3桁くらいの規模になるのかなと思って、ちょっとそこ教えてください。

○委員長（大山利吉） はい、田口課長。

○まちづくり課長（田口美和子） 今回の雪協働事業に参画している大曲地域のこの町内会の数ですと、3桁は行ってなくてですね、50未満の戸数の集落になります。もちろん200、300を数える町内会もございますけれども、どちらかといいますと昔からつながりのある50未満の集落で取り組むということの方が、この事業に関しては多いというふうに思っております。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） その世帯数に関して、使われる補助、いろいろな、この雪下ろしから除雪からあるんだけど、やっぱりその世帯数に比例してるもんだっすか。あまりその辺は関係なく、やっぱり盛んに使うところは盛んに使ってて、そうじゃないところは年

に数回しか使わないとか、そんな感じで使われているもんなんだっすか。

○委員長（大山利吉） はい、田口課長。

○まちづくり課長（田口美和子） この制度の中で、間口除雪、屋根の雪下ろしというのが、まずメインの事業になりますけれども、間口除雪に一番多く取り組んでるところは、15くらいになります。その一つの団体で、15の一人暮らし世帯ですとか、いろんな制限がありますので、一人暮らし世帯、あとは高齢者世帯、あと地域でこの方の支援は必要だというふうにとらえたところが、この事業の対象になりますので、一番多いところで15程度、少ないと1個、2個というようなかたちになります。あまり集落の規模に比例するようなかたちではなくて、やはりその地域がどれだけ自分たちの地域に支援を求めている人がいるかというところだと思っていますので、あまりその何世帯いるから10あるとか、20あるとかというような、そういう比例したかたちではないというふうにとらえております。

○委員長（大山利吉） はい、秩父委員。

○6番（秩父博樹） なるほど、分かりました。

ちなみに、一番少ないところって、どこの何世帯どかって、分かるもんだっすか。

○委員長（大山利吉） はい、田口課長。

○まちづくり課長（田口美和子） 1番少ないところで、間口1件というところもござい
ます。それは大曲地域ですとか、西仙北地域ですとか。

○6番（秩父博樹） ごめん。俺の聞き方間違った。

団体の中の加入してる世帯数が、例えば5世帯でやってるどがってところでした。

○委員長（大山利吉） はい、田口課長。

○まちづくり課長（田口美和子） すみません、失礼しました。

そういったところはなくて、やはり集落全体で取り組まれているので、20とかって
いうところが、1番小さいところになってます。正確な数字は申し訳ありません、今把握して
ございませぬので。

○委員長（大山利吉） はい、石塚委員。

○7番（石塚 柏） 実施団体の、例えば交通安全のために、どうしても通学路の安全の
確保のために、交通安全の各地区の安全会、これ対象になるんですか。

○委員長（大山利吉） はい、田口課長。

○まちづくり課長（田口美和子） 今回この募集する団体としては、まず一番が自治会、

次が自主防災組織等でございますので、安全会というような団体でも申請は可能でございます。ただ、最低と申しますか、5人以上の関わってくれる方が必要という、担い手であったり、その会をまとめてくださる方であったり、そういった方は必要というふうになっておりますので、今おっしゃっていただいた団体でも十分可能ですし、世帯数が多い町内については、2分割ですとか、3分割して取り組まれている団体もあります。エリアが広いと作業に時間がかかりますので、多いところはそういったかたちで取り組まれております。

○委員長（大山利吉） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

なお、討論・表決につきましては、経済産業部審査終了後、一括で行います。

ここで、説明員入れ替えのため、暫時休憩いたします。準備が整い次第、再開いたします。

午前10時40分 休 憩

.....
午前10時42分 再 開

○委員長（大山利吉） 休憩前に引き続き、審査を再開いたします。

はじめに、経済産業部長からご挨拶がございます。高橋経済産業部長。

○経済産業部長（高橋正人） あらためて、おはようございます。

企画産業常任委員会審査にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

国内で初めて、新型コロナウイルス感染症が発症してから丸一年、国内、県内でも発症からまもなく一年になろうとしております。終息に至るところか、依然として猛威を振るっている状態でありまして、主要都市での緊急事態宣言も延長されている状態です。このような中、市内の企業、事業への影響も拡大している状況にあり、とりわけ飲食業においては、多大な影響が懸念されております。

本日は、昨年11月の第6回臨時会においてご承認いただいた飲食店応援給付金の追加支援について、補正予算を上程させていただいております。

また、現在これまでの新型コロナウイルス感染症対策にかかわる支援策についても検証を行っているところでありますが、一部の減額補正も含め、このあと担当課長よりご説明申し上げます。よろしくご審議のうえ、ご承認賜りますようお願い申し上げます。私か

らの挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（大山利吉） どうもありがとうございました。

それでは審査に入ります。

議案第1号、令和2年度大仙市一般会計補正予算（第18号）について、企業商工課所管の説明を求めます。小松企業商工課長。

○企業商工課長（小松正美） 議案第1号、令和2年度大仙市一般会計補正予算（第18号）につきまして、ご説明申し上げます。

説明は、資料ナンバー3-1、事業説明書で説明させていただきます。

初めに、7ページをお願いします。

経営再興支援事業費（新型コロナウイルス対策）。この事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市内事業所の営業活動が低迷していることから、事業の継続につながる支援を行うことで、雇用の維持と市内経済の再興と活性化につなげる目的で、7月臨時補正予算で計上したものです。1月15日の申請期限で全給付額が決まったことから、総額1億5,741万円を今回減額補正するものです。

はじめに、テナント事業者等支援事業では、市内の1,000事業所を見込んで予算措置しましたが、自己所有物件での営業が想定より多かったことなどが今回の結果となり、281事業所に、4,274万円を支給しています。

自動車運転代行業支援事業では、21事業所で40台分を見込んでいましたが、コロナの影響で事業停止した業者もあり、17事業所に130万円を支給しています。

これらの事業は、市の広報や市ホームページでの周知を図ったほか、商工団体を通じた会員企業への案内、運転代行については、直接電話での案内を行うなど周知に努めました。

そのほかに、酒蔵支援として市内九つの酒蔵に、それぞれ100万円ずつ900万円と、宿泊業等支援として30の事業所に、3,786万8千円を支給しております。

つぎに、事業説明書の8ページをお願いします。

飲食店応援給付金事業費。この事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市内飲食店が依然として厳しい経営状況となっていることから給付金を支給することで、ウイズコロナ・アフターコロナを見据えた店内感染防止対策の推進と事業継続への支援により市内の商業振興と雇用の維持を図る目的で行ってまいりました。1月15日で受付期間を終了し、374事業所に3,900万円を支給しました。

しかし、忘年会や新年会等宴会の自粛や首都圏の緊急事態宣言発令などで、依然厳しい経営環境におかれていることから、1月15日までに本給付金を申請した市内の事業所に、1事業所あたり10万円、複数の事業所がある場合は、20万円を上限として再支給するものです。

補正額は、給付金と事務費で、3,805万円をお願いするものです。

申請方法は、申請書類を対象事業所に郵送し、事業者の負担軽減と感染拡大防止の観点から郵送による提出をお願いし、速やかな給付を行ってまいります。

以上で、議案第1号、令和2年度大仙市一般会計補正予算(第18号)につきまして、ご説明申し上げました。

よろしくご審議のうえ、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○委員長(大山利吉) ありがとうございます。これより質疑を行います。

質疑のある方、お願いいたします。はい、鎌田委員。

○25番(鎌田 正) 予算そのものは特別私反対するつもりはないですけれども、一つ聞きたいことは、飲食店の応援給付金事業ですけれども、10万円追加して支給すること、それがやぶさかではないですけれども、これに例えばよ、納めてる業者、酒でも、例えばつまみ類の納めてる業者、そういったものについてはなんにも応援ないもんだっしかということ、一つと。

それからもう一つ。給付件数今、実績374あるわけだけれども、これからよ、この374以上の、やっぱり俺も欲しいやという新たどころが出てきても対応できるおんだっしか。この2点お願いします。

○委員長(大山利吉) はい、小松課長。

○企業商工課長(小松正美) 今回3月補正で一応やる予定だったんですが、市内の酒小売店、それから飲食店に卸す業者さん関係が今までそういう給付がなかったんですね、酒蔵はあったんですが、先に小売店等にはないということで3月補正でやろうとしたんですが、県の方から一回ストップしてくださいということで、4月以降の補正でそのあたりを、酒の小売店とか、そういう方々を助けようという話は今実際にありました。3月補正で上げようとしたんですが、財政の方から県の方でちょっと待ってくださいと、1回、今年の方で清算してからまた来年度に向けてやるという話で、今のところはそういう、酒の小売店とか、そういう方々を支援する話は実際にあります。新年度で応援していきたいなということになってます。

あとそれと、今374事業所の申請があったんですが、もしかすれば今後出てくるかもしれないということは考えられます。そういう方々は、そういう事実があれば、是非やりたいと思うんですが、今のところ374事業所分しか本当に補正していないもんですから、そのあたりはちょっと今後考えていきたいと思います。

○委員長（大山利吉） はい、鎌田委員。

○25番（鎌田 正） 今まずその納入業者の件だけれども、4月に補正、それ悪いわけではないけれども、そういった人たちを早めに面倒見ていかなければ、店構えてら人だけ10万円もらって、我々はなんにも応援してもらえないと、支援してもらえないと、ちょっと不公平だという意見結構あると聞いているし、またあるはずだし、そこあたり明確にやっぱり早めになんかのかたちで3月なら3月いっぱい、もう1回補正組んで、そういった業者にも応援していく、あるいは支援していくんだよということをPRとかしてやらなければかわいそうでないのかなということを思ってること一つと。

ちょっと、これも一つ、私言えば皆さん笑うかもしれねども、やっぱり飲食業に関連、店構えてる人はこれでいいんだけど、構えてね人、飲食関係の構えてね人、例えばみんなに笑われるかもしれねけれども、（これは議事録さおごさねでけれ。例えばコンパニオンどがよ。）そういった人たちも、なんか対象してやらなければ、この飲食業界全般に対しての応援、なかなかなくていかねんでね。なかなか難しい話だと思うけれども、このコンパニオンの件は。なかなか厳しいと思うんだけど、非常に皆さん、これで生活してる中で、なんかのかたちで応援してやる必要あるのではないのかなと最近思ってる。最近私も酒飲んで歩がねがら、あんまりそういったことねんだども、一つなんかのかたちで、この納入業者と、その飲食業に関連してる方たちに、なんか応援してやることできないものかなと思って。

それからこの374、これだって、完全に374に決めらいでるごどだっしべ。今の段階で。前の実績ないものはダメだよと、門前払いなることだべ、今の段階では。なんかもう少し窓口広くして、やってやらなければ、飲食業の人たち、皆さん大変でないのかなと思って考えてるし、もう少し窓口広く、あるいは柔軟な考え方の中で対応してやらなければかわいそうでないのかなと、せっかく一部の人間、一部ではね、ほとんどだかもしれねけれども、残された一部の人間だかもしれねけれども、一部の人間は、恩恵は被らないということはいかがなものかなと思ってるので、これもう1度お聞きしたいと思います。

○委員長（大山利吉） はい、小松課長。

○企業商工課長（小松正美） 今回この飲食店関係の部分、またちょっとクローズアップして出していますが、飲食店以外も、飲食店も入ってたんですが、ほかに経営維持臨時給付金20万ですね、それから国の持続化給付金、なかなか国の方も難しいんですが、うちの方でも応援してまして、それから商工団体の方もみんな応援して、国の持続化給付金もらえるように一生懸命頑張ってまいりました。経営維持臨時給付金も、なるべくもらえるようにということで、要件を緩和して、皆さんに全部20万円ずつ払えるようにやってまいりました。コロナもこのまま収まるような状況でないので、いろんな面で国の方と相談しながら、いろんな応援をしてまいりたいと思います。

○委員長（大山利吉） はい、橋本委員。

○20番（橋本五郎） 先ほどの鎌田委員からの卸、今国でもこの卸会社に対しての助成というようなことで今検討している、新聞とか、テレビ等見てれば、今すぐっていう、せばいくらの予算つけるのよということなんだけれども、そういうのを検討しているような新聞とテレビ等見てるんですけれども、やっぱりそういうのこう、国の施策を見通しながらやってもらえればと思うわけであります。

なんとか、今までどおり頑張ってください。

○委員長（大山利吉） はい、鎌田委員。

○25番（鎌田 正） ちなみに飲食店、これ食堂も入るなんだっしか。

○企業商工課長（小松正美） 入ります。

○委員長（大山利吉） ちょっと暫時休憩させていただきます。

午前10時55分 休 憩

.....
午前11時00分 再 開

○委員長（大山利吉） それでは、休憩を解きまして、会議に入ります。

ほかに質疑は、ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ないようですので、これで質疑を終結いたします。

ここで、説明員入れ替えのため、暫時休憩いたします。準備が整い次第、再開いたします。

午前11時00分 休 憩

.....
午前 11 時 01 分 再 開

○委員長（大山利吉） 休憩前に引き続き、審査を再開いたします。

議案第 1 号、令和 2 年度大仙市一般会計補正予算（第 18 号）を再び議題といたします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） 討論なしと認めます。

それでは、お諮りいたします。本件につきましては、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ご異議なしと認め、本件は原案のとおり可決すべきものと決しました。

○委員長（大山利吉） 以上で、当委員会に審査付託となりました事件の審査は、全て終了いたしました。

なお、本委員会の「審査報告書」及び「委員長報告」の案文につきましては、委員長にご一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（大山利吉） ご異議なしと認め、そのように決しました。

これをもちまして、企画産業常任委員会を閉会いたします。

お疲れ様でございました。

午前 11 時 02 分 閉 会

委員会条例第29条第1項の規定により、ここに署名する。

令和3年 月 日

企画産業常任委員会委員長 大山利吉